

新会長に齋藤潔氏 (早稲田大学)

冷空学会 23年度通常総会を開催

NEDO調査事業の終了等を報告

公益社団法人日本冷凍空調学会（略称「冷空学会」）は18日、東京カマーパレス（東京都文京区）にて2023年度通常総会を開催した。総会では令和4年度決算が承認されたほか、2年間の任期満了に伴う理事・監事の選任も承認され、新会長に齋藤潔氏（早稲田大学）が就任した。また副会長にはそれぞれ、総務・会計担当として佐々木正信氏（東京電力エナジーパートナー）、学術・編集担当として鹿園直毅氏（東京大学）、事業担当として古庄和宏氏（ダイキン工業）が就任。さらに前会長の川村邦明氏（前川製作所）を含む歴代会長3名の名誉会長への就任が承認された。

冒頭の挨拶で前会長の川村氏は、過去2年間のコロナ禍での同学会の運営や、カーボンニュートラル2050委員会など

の活動を振り返り、関係各位へ感謝を述べた。また新たに同学会の2023年度・24年度会長に就任した齋藤潔氏が登壇し、新任理事を代表して挨拶を述べ、「前期執行部の皆様には運営が厳しい状況を改善していた

き、バトンタッチができたと思っている」と前任者各位を労い、これまでの運営に謝意を示した。続けて「とにかく私自身が率先して汗をかき、当学会を引っ張っていきたい。当学会は間もなく100周年と非常に



齋藤 潔会長



川村 邦明名誉会長

長い歴史を持っており、高ぶる気持ちと責任を強く感じている。長い歴史の中で培われた伝統や学問など、引き継がなければならぬものをきちんと

と引き継ぎ、一方で大きく変わる時代の中で改革するものは改革していき、新しい時代の学会を作っていきたい」と、同学会の今後の運営へ意欲を込めた。

令和4年度事業報告では、教育事業において、22年度年次大会の岡山大学とウエブでのハイブリッド開催に加え、セミナー・シンポジウムを計17回（参加者合計467名）、見学会を計8回（同114名）開催したこと等を報告した。見学会では前年度の開催回数1件から件数を増やし、特に東北、北海道の参加者が多く盛況であったとした。また、23年度年次大

会については日本大学にて9月6～8日の日程で開催する予定であると報告した。国際交流事業では、ノルウェー冷凍学会（NKF）との交流会を10月に行い、今後の活動連携を推進していく趣旨のMOUを締結したほか、フランス冷凍学会（AFF）とのジョイントミ

ニテイングを11月に開催し、技術的分野や学会の運営状況などについて意見交換を行ったとした。調査研究事業では、NEDO調査事業である「次世代冷媒に関する調査委員会」が22年度をもって最終年度となったことから、5年間の調査の成果をファイナルレポートとしてまとめ、冷空学会のホームページにて公表したことを報告した。